

北区

独自の取り組み①

地域が子どもを育む「寺子屋」事業

植木町では、全校区・地区に「植木寺子屋」の塾が開設され、地域住民自らが伝統文化の継承や世代間交流を行い、その活動を通して子どもたちの「生きる力」を育てています。



独自の取り組み②

SDGsフェスティバルで意識向上

「持続可能な開発のための教育(ESD)」に指定された北部中生徒による発表会をはじめ、見て・聞いて・体験できるイベントを開催。もっと多くの住民にSDGsについて身近に取り組んでもらう「きっかけ」づくりを進めています。



発信だけではなく自ら関わっていききたい

「これからは住民による自主防災が大事」と勧められ、防災士の資格を取得した高智穂さん。北区が昨年作成した「防災マイBOOK」の制作にも携わり、防災意識の啓発にも努めています。



たかちほ 高智穂 さくらさん

防災・防犯・教育という視点で活動しているNPO法人「ソナエトコ」メンバー。FM791で地域活動や小学校区の話題を紹介する番組等を担当。

「水害や熊本地震を経験し、各校区や地域では防災訓練をはじめ、震災記録誌の制作、校区防災連絡会の研修会などがより活発に行われています。ただ『私が住民として校区で活動できているか?』と言えばまだまだ。今後は私も含め、地域活動や防災に積極的ではなかった方々にも関心を持ってもらえるよう行動したい。皆さんも、まずは暮らすまちを知ることから始めてみませんか。

西区

独自の取り組み①

まちづくりに自転車を活用

西区役所では、「自転車で訪れたいまち」を目指し、ロードバイクなどでも駐輪しやすい「サイクルラック」の無料貸出や、2つのサイクリングマップの作成など、西区(サイク)リングのまちづくりを行っています。



独自の取り組み②

企業・大学・高校と連携

行政と民間事業者が連携し、自然などの西区の地域資源を活用した事業に取り組んだり、大学と協働で商品開発したりと、西区の魅力を発信しています!



クラフトビールから広がるおもしろいコトで区をPR

「西区は駅周辺の再開発が完了し副都心としての機能が整いつつある一方、金峰山をはじめ豊かな自然に恵まれたエリアです。両方の魅力を上手に融合させ、地域活性化につなげていきたい」と語る徳永さん。



とくなが たつま 徳永 龍磨さん

仲間たちと取り組んだのは、クラフトビール作り。一昨年から挑戦が始まり、第一弾は有明海の家苔、第二弾はタマネギを使った、ユニークなご当地ビールが完成しました。「今後の展望は、金峰山の害獣を駆除しビールのおつまみとなる西区ジビエの開発。それを、駅前広場のイベントで多くの人に楽しんでほしい」。想像するだけでワクワクしてきます。

熊本駅近くに店を構える「徳永酒店」5代目。西区オリジナルのクラフトビール造りに挑戦する「西区クラフトビール協議会」メンバーのひとり。

東区

独自の取り組み①

秋津校区地区防災計画を策定

熊本地震の教訓と校区を流れる河川等の洪水災害リスクを念頭に、住民参加によるワークショップや検討会議を重ね、令和2年3月に校区独自の防災・減災ルール等を定めた地区防災計画を策定しました。



独自の取り組み②

託麻新四国八十八ヶ所巡りの散策マップを作成

地域的な特色のある文化資源で保存会組織による継承活動があること等から市郷土文化財の第一号に認定された託麻新四国八十八ヶ所巡り。多くの方に地域の歴史や文化の魅力を知らせていただくために散策マップを更新しました。



毎日の「ちょこっと時間」で我がまちの安全を守る!



つざき ふきこ 都崎 芙貴子さん

おそろいの衣服を身につけ、ジョギングやペットの散歩等しながら「あいさつパトロール」をする防犯ボランティア活動「ちょこっとパトロール」の実行委員長。

託麻地域にある6つの校区がタッグを組み、住民主体で行っている防犯活動「ちょこっとパトロール」。「日常活動の延長で役に立てる」という気軽さから、令和元年の結成以来1,000人以上がメンバー登録しています。活動の始まりは、児童の事故や痛ましい事件に心を痛めた6校区の防犯会長が「自分たちの地域を自分たちで守るために、見守り活動をしませんか?」と回覧板で呼びかけたことだったそう。まちづくりセンターが仲介役となることで賛同者が増え、現在に至ります。

「最大の防犯は、近所が顔見知りで、普段から挨拶を交わし合うこと。今後もコミュニティーを強化しながら長く活動を続けたい。そして託麻地域以外にも広がっていくといいですね」と、意気込みます。



作: 桜田幸子